

日本における「在宅勤務」と地域交流

・日本における「在宅勤務」は、コミュニティ・フレンドリーに欠けているが、そのニーズは高いのではないか？

2005.10.21 JILPT 神谷隆之

- * 雇用型テレワーク - 「在宅勤務」(労働時間の全部又は一部を自宅で働くスタイル)
モバイル勤務(顧客や事業所間を移動しながら働くスタイル)

1 日本における在宅勤務の特徴

- ・一般的な長時間労働を背景に、諸事情の中で出来る限り労働時間を確保する手段として利用されている側面があるのではないかと。例えば、
 - 男性 職場で終わらなかった仕事を帰宅後に実施
 - 女性 育児期(主に保育園・小学校低学年)中の勤務支援:短時間勤務 + 在宅勤務

2 地域交流の意欲はあるが、余裕なし

- ・「地域と関わりたいという意欲はあるが、仕事と家庭のことで精一杯で、その余裕がなく、難しい」
- ・「業界、そして日本全体として、正社員は男女とも労働時間が長すぎると感じる」
(通信業界、30歳代後半の女性、子供1人・小学校1年生)

3 (特に育児に関し) 地域サポートのニーズと萌芽

・「(小学校低学年は放課後に) 子供を一人にしておくには心配で、昨今の治安の状況もあり不安。(学童保育など) もっと気軽に利用できる制度の充実を希望。この部分が充実すれば、今までどおりの仕事が継続できるひとつの助けになる」
“地域の治安に不安感”

・「(延長保育でも) 時間までにどうしても迎えに行けない時がある。そんな時の心強い味方は、夫でも、遠く離れて暮らす両親でもなく、保育園のママ友達。フルタイムで働くママ同士、ギリギリのところで頑張り、お互い子供を預けあってしのいでいる」

“在宅勤務等と組み合わせ、またSOHOとも連携して、ママ・パパ同士等のボランティア的な地域ネットワークを築けないか”